

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月16日

【評価実施概要】

事業所番号	873800759		
法人名	有限会社 光陽		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	稲敷郡河内町長竿386-1 (電話) 0297-84-2207		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	平成20年6月16日

【情報提供票より】 (平成19年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	人
職員数	20人	常勤	4人, 非常勤 16人, 常勤換算 23.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(平成19年9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	9名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5			要支援2	1名	
年齢	平均 79歳	最低	63歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢野医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは利用者がぬくもりや馴染みの家庭的な環境で自分らしい生活が送れるよう環境づくりを行っている。
管理職員は質の高いケアサービスを実践するためには、職員教育が大切であると考えており、研修に熱意をもってあたっている。
管理者及び職員は利用者一人ひとりの人格を尊重するとともに、地域に溶け込んだ楽しい生活が送れるよう支援している。
家族会の発足を機会に、家族の意見・苦情・提言を積極的に取り入れ、運営に反映させるとともに、さらなる質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域の人たちの理解を得るため、広報紙を配布するとともに、ゲートボール大会・小学校の体育館を利用した行事などに参加している。 また、天窓によしずを張り夏場の陽射しをやわらげている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は評価の意義を誰のために、何の目的で必要なのかを理解するとともに、課題等について改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族・地域住民・行政などを委員とする運営推進会議を月1回開催している。 会議ではサービスの内容や取り組み状況などを報告し、意見交換を行うとともに、意見を集約してサービスの向上に取り入れている。 町の担当者とはホーム運営等について報告・連絡・相談を行っている。 また、意見や情報交換を行ったことをホームのサービスに取り入れている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月1回、利用者の近況報告を各担当者が家族に手紙で通知している。 また、行事等イベント情報を通知しているが、職員の異動については知らせていないので、家族の不安を少しでもなくすため、職員の異動について、家族等へ報告することを期待する。 家族会を定期的に開催し、意見・苦情を聴取するとともに、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学校や町の運動会、舞踊祭りなどの行事に積極的に参加している。 また、可能な限り行事の企画に共同参画している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	年若いでも自分らしく暮らしていけるよう、一人ひとりの個性を大切にサービスを行っている。 また、小学校の運動会や発表会への参加など地域との交流を深め、理念を具現化している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やリビングに掲示している。 また、ミーティングの都度職員で話し合い、共有している。 地域に密着した家庭的な馴染みの環境の中で、今までと同じ、当たり前な生活が出来るよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校や町の運動会、舞踊祭りの行事に積極的に参加している。 また、可能な限り行事の企画に共同参画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義を誰のために、何の目的で必要なかを理解するとともに、課題等について改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域住民・行政などを委員とする運営推進会議を月1回開催している。 会議ではサービスの内容や取り組み状況などを報告し、意見交換を行うとともに、意見を集約してサービスの向上に取り入れている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とはホーム運営等について報告・連絡・相談を行っている。 また、意見や情報交換を行ったことをホームのサービスに取り入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用者の近況報告を各担当者が家族に手紙で通知している。 また、行事等イベント情報を通知しているが、職員の異動については知らせていない。	○	家族の不安を少しでもなくすため、職員の異動について、家族等へ報告することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的開催し、意見・苦情を聴取するとともに、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者本位の支援を最優先して職員の配置を行っている。	○	急な退職による職員の交代は利用者及び家族に不安を与えるので、採用時によく話し合い、離職にかかるルールを作ることを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数・経験などの段階に応じて、外部セミナーの参加や社内研修、OJTを実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講習会等へ積極的に参加し、同業者との交流やネットワークづくりを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にホーム見学、職員や他の利用者との面談を行うなど、場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯・掃除・調理などの利用者ができることは何でもしてもらっている。 職員は利用者を人生の先輩として敬い、教えてもらうという関係で支援にあたっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の面接で利用者の思いや暮らし方の希望を聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望を面接等で聞き取るとともに、職員による課題等の把握や意見交換を行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の観察・状態の変化などで改善すべき状態が出た場合は、本人・家族・職員と話し合い、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護移動サービスと提携し、買い物・受診・その他利用者のニーズに応じた支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医・歯科医・眼科医など、家族の了解を得て適切な医療が受けられるよう支援している。 特に内科医には、月1回ホームへの往診を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針をかかりつけ医や家族と何度も話し合い、方針を共有しているが様式等を作成するまでには至っていない。	○	利用者の重度化や終末期の対応方法等について、同意書等の様式や対応マニュアルを作成するなどの取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー等を損ねない対応に取り組むため、職員相互に注意しながら支援している。 ミーティング等でも重要事項として常に指摘し、検討している。 また、記録等の個人情報の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの個性を大切にし、ゆったりとした雰囲気づくりや日々明るく楽しく過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り、味噌汁作り、デザート作りなどの準備や盛り付け、食器洗い、食器拭きなどの後片付けまで、単に食事を楽しむだけでなく全体を通して楽しんでもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って入浴できるよう夜間も支援している。 また、入浴を好まない人にもシャワー浴や清拭を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や植物の世話・配膳下膳・掃除などの得意なことを把握するとともに、本人の希望と実情や生活歴に合わせた支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にできるだけ付近のゲートボール場や神社に散歩している。 また、野菜などの食材や日用品の買い物などにも同行を薦めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者と職員は玄関や居室に日中鍵をかけたことを徹底している。 敷地のまわりには柵があり鍵をかけているが、その開閉については職員が利用者・家族に説明し、理解を得ている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	有事に備えた避難訓練を消防署の指導の下に行っているが、地域の人々の協力を得るまでには至っていない。	○	地域の方々にも協力を得られるよう、運営推進会議等で働きかけることを期待する。 また、災害に備え水や食料品などを備蓄する事を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態や食欲、習慣に応じた盛り付けを行っている。 また、水分等の摂取量をチェック表に記録しており、少ない利用者には水分補給するよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に手作りのカレンダーや季節にあった絵の作品を掲示している。 特に玄関・リビング・和室には季節の花を飾っている。 夏場はよしずを用意し、陽射しをやわらげている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して使い慣れた家具など持ち込んでもらうなど、本人が居心地よく住み慣れた環境で過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。